

# やまと 民俗への招待

この夏続けて三度、同じ田の中にたたずんだことがある。前から気になっていた場所だ。近鉄橿原線の電車に乗り、郡山駅を出て西側を眺めていると、しばらく金魚池が続いた後、広い田の中に小さなモリが見える。木陰には祠もある。

この光景を思い出し、て7月末の暑い盛りに出かけた。大和郡山市豊浦町の集落の北東、あぜ道の先にモリと小さなお堂があった。石仏がいくつもまつられ、花が供えられており、花が供えられ

ている。日が傾いてきたので、翌日午後まで出かけた。炎天下ジリジリと暑いが、青田のせいか不思議な爽快感がある。すぐ北で近鉄とJRが交差し、ひつきりなしに電車が行き来する。

翌日、今度は午前中に出かけた。田には人が出ていた。近くで前はなかった水音がして、いる。聞けば土用干しのあと、昨日から田に入れて、3日間3



県立民俗博物館の写真展に出展した「豊浦の家」3枚組みの1枚=筆者撮影

## 景観捉えた11の視点

という。暑いはずなのにいつまでも立っている。地蔵堂の写真などを撮って、今年の県立民俗博物館(大和郡山市)主催「私がとらえた大和の民俗」という写真展に出した。

玄関ホールでの写真展は、県下の民俗を撮る写真家10人で始まり、最近私も仲間に入

れてもらった。今年のテーマは「住」で、「大和棟」「歴史を語る建物」「福祉の原点」「山間部に暮らす」「暮らしの中で」「火迺要慎」「木と土と風」「みせ屋」「暮らしこそ祭り」「地蔵と暮らす」と私の「豊浦の家」の各タイトル3枚組みの写真が、12月11日まで展示されている。それぞれの視点で見つけ出された最新の「民俗景観」をお楽しみいただきた

い。県立民俗博物館は入館料大人200円、月曜休館。電話(0743・53・3171)。

(奈良民俗文化研究所  
代表・鹿谷勲)  
II 隔週掲載